

宝塚市西谷地区の昆虫数種について

森 和 夫

西谷地区には、玉瀬、^{たまたせ}境野、^{さかいの}大原野、^{おほはらの}下佐曾利、^{しもさそり}波豆等が含まれる。この地区は、宝塚市の北半分を占め、高原状の地形に田園風景が広がっている。特に、玉瀬付近は、古くからギフチョウを多産することで有名であった。1970年頃には、ギフチョウの個体数も多く、春になると毎年のようにここへ通っていた。

その後、長いブランクがあったが、川西市見野に転宅したところ、この宝塚市西谷地区へは意外と近く、猪名川町を抜けると、車では20分もあれば行けることが分った。従って、少しの空き時間を利用して、この付近を回ってみた。今ではギフチョウは激減し、ほとんど姿を見ることができなかったが、数種のトンボと甲虫を得ることができたので報告する。

1) トンボ類

西谷地区には、小さな溜池が点在し、谷川も余り汚染されていないため、ヤンマやサナエトンボ等をよく見掛けたが、落ちていて採集ができなかったこともあって、種名までは確認できないものが多かった。しかし、後記のようにサラサヤンマを採集し、また、ヨツボシトンボの多産を確認した。

① サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri* (Martin)

○境野;28—V—1990. 1 ♀, 17—VI—1990. 1 ♂.

国内に産するヤンマの仲間では最小の種類であり、腹部に細かい黄色紋が並んでいて可憐な感じがする。近畿地方でも、かなり稀な種のようなのである。

1962年に川西市一の鳥居の北で1♂を得たことがあり(標本は虫に食われて消失した)、今回は、それ以来の採集であった。

関西トンボ談話会による「近畿地方のトンボ」(1975年、大阪市立自然史博物館収蔵資料目録、第7集)では、宝塚市内からは未記録である。

前者の1♀は、鹿田の縁で、1m程の高さをホバリング(滞空飛翔)していた。また、後者1♂は、小さい湿地の空間を縄張りにし、2m程の高さをゆっくり飛んでいたところを採集した。いずれの日にも他の個体は見掛けなかった。

② ヨツボシトンボ

Libellula quadrimaculata asahinai Schmidt

○玉瀬；24—V—1968. 3♂, 18—V—1969. 1♂.

○境野；28—V—1990. 1♂（他に、10数頭目撃）

本種は、北方系のトンボであり、北海道や東北地方では普通種のようなものである。以前に北海道へ行った際、知床五湖では多数飛んでいた。しかし、近畿地方等では産地が限定され、個体数も少ないようである。この西谷地区でも生息する池は限られ、前記データのように玉瀬で採集したことがあるが、個体数は少なかった。

今回は、境野の溜池において、多数発生していることを確認し、その内の1♂を採集した。

2) 甲虫類

西谷地区は、隣接する川西市や猪名川町と比べると、クヌギ林がほとんど無い。この付近の山林は、赤松を主体とする貧弱な雑木林であるため、クワガタムシ等の大型の甲虫採集には向かない。従って、蝶以外目的では、採集者も少なく、余り調査されていないものと思われる。今回は、テントウムシ1種と、ハムシ4種について報告する。

① ジュウサンホシテントウ

Hippodamia tredecimpunctata (Linné)

○大原野；12—V—1990. 3exs.

地色が橙赤色で、上翅に13個の黒い斑紋を有する、やや小型のテントウムシである。

大原野の挺水植物が多く生えている溜池を調べていて、このテントウムシを見付けた。その周囲を探し、さらに2頭を採集することができた。これらが止っていた草も持ち帰り、植物図鑑で調べたところ「クサヨシ」であった。

原色日本甲虫図鑑Ⅲ、P262（保育社刊）によると、ジュウサンホシテントウは、北半球に広く分布し、国内でも北海道から九州にかけて記録されているとのことである。

筆者は、手持ちの資料が少なく、詳しいことがよく分からないが、愛知県の昆虫（上）P.259、（1990年、愛知県昆虫分布研究会発行）によると、愛知県では数ヶ所の産地が記録されており、「アシの葉上で発見されるが、比較的少ない。」と記載されている。兵庫県下においても、多いものではないと考えられるが、池のアシやクサヨシ等が多い所を探せば、他でも採集できそうに思う。

② ネクイハムシ *Donacia lenzi* Schönfeldt

○波豆；29—V—1989. 8♂8♀, 3—VI—1989. 2♂6♀, 30—V—1990. 1♀, 4—VII—1990. 1♀.

○下佐曾利；12—V—1990. 6♂7♀, 20—V—1990. 4♂5♀、ネクイハムシは、美濃郡吉川町に多産することが高橋寿郎氏によって報告されている（きべりはむし、Vol. 14, No. 2, P.43～44, 1986）。また、ネクイハムシの仲間については、「アトラス日本のネクイハムシ」（野尻湖

昆虫グループ編、1986) が詳しく、本種の兵庫県下のデータとしては、猪名川町や西宮市、芦屋市等の7ヶ所が記録されている。これには、宝塚市での記録は載っていないが、前記データのよ
うに、この西谷地区でも本種は少なくない。

当地では、ジュンサイの生育している池を目当てに探せば容易に見出すことができる。成虫は、
5～6月に個体数が多く、8月に入っても若干見られる。ジュンサイの葉上に止まっていることが
多いが、活発に飛ぶため採集しにくい。

1989年6月3日に波豆の池を訪れた時には、丁度、ジュンサイを収獲しているところであった。
1 m四方程の筏の上に立った老人が、竹棹を器用に操りながら、ジュンサイのツルを切り、岸辺へ
寄せ集めていた。岸辺では、女性2人が収獲を行っていた。このジュンサイには、ジュンサイハ
ムシ *Galerucella nipponensis* が大発生していて、葉の裏には幼虫も多数見られた。老人の話では、
「ジュンサイハムシは、ジュンサイの害虫であり、筏の上に這い上がってくるため、踏み潰すと足
元が滑ってあぶない」というようなことを言っていた。しかし、ネクイハムシの方は、ジュンサイ
ハムシと比べると個体数が少なく、すばやく飛び立つため、その存在に気付いていなかった。

③ キンイロネクイハムシ *Donacia japana* Chūjō et Goecke

○下佐曾利；6—V—1990. 10♂ 8♀, 12—V—1990. 12♂ 8♀, 20—V—1990. 7♂ 5♀.

20年余り前になるが、神戸昆虫同好会の例会で藤田国雄氏宅に伺った際、標本を拝見した中に宝
塚市産のキンイロネクイハムシがあった。その時、ハムシの仲間にも、このような光沢の美しい種
がいることを知って感動を覚えた。採集地は、現在のJR宝塚駅北の斜面にある池とお聞きしたよ
うに記憶している。その頃、すでにその池の周辺は宅地化が進んでおり、採集はできなくなってい
るとのことであった。

前記「アトラス日本のネクイハムシ」によると、本種の産地は極めて限定されるようである。こ
の中で「大原野北方の池」に多産することが報告されている。今回(1990年)の採集地は、多分こ
れと同じ池と思われる。周辺の溜池も、何ヶ所か調査したが、この池以外では得られなかった。当
地は、兵庫県下におけるキンイロネクイハムシの多産地としては唯一の池と考えられるため、この
環境をいつまでも保存しておいてほしいものである。

なお、この同じ池で、ネクイハムシも発生していた(前記)。

④ ヤツボシツツハムシ *Cryptocephalus japonus* Baly

○境野；28—V—1990. 1ex.

本種は、体長8 mm位で、ツツハムシの仲間としては大型である。上翅には、黄色の地に黒い斑
が8個あって美しい。

前記のサラサヤンマ♀を採集した後、畦道を戻っている時、足元を低く飛んでいるハムシを見付

けた。イタドリハムシのように見えたが、ネットで掬ったところヤツボシツツハムシであった。これまで、六甲山系や能勢地方等においても本種を採集することがなかった。この地区でも稀な種と思われる。今回の採集地付近には、カシワもナラガシも全く生育していないが、コナラヤクリが多いため、そのどちらかがホストであろうと考えられる。

⑤ ムギヒサゴトビハムシ *Chaetocnema cylindrica* (Baly)

○境野；28—V—1990. 17exs.

体長は、2～3mmの小型のハムシであるが、前胸背及び上翅は、金緑色の光沢があり、粗い点刻に覆われていて美しい。

原色日本甲虫図鑑Ⅳ（保育社刊）及び、原色昆虫大図鑑Ⅱ、甲虫篇（北隆館刊）等、いずれにも、本種のホストはコムギとなっている。従って、麦畑があると時々覗いてみたが、これまで本種を見ることができなかった。

今回、前記ヨツボシトンボを多産する溜池で、緑の挺水植物をスィーピングすると網に入ってきた。この溜池は、雑木林に囲まれていて麦畑は全く無かった。また、その挺水植物は、カヤツリグサの一種と思われ、一面に繁っていたため、これがホストと思われた。今後、ここでの食草を確認したいと思っている。

この西谷地区は、前述のように宝塚市の北半分を占めるが、山間部にあり、交通の便が悪いため、これまでは開発の手が届かずにいた。しかし、ここも阪神間のベッドタウン化を目的とした「宝塚新都市構想」が検討されていると聞く。すでに幹線道路は、道巾が拡張されてきている。この地の開発も、そう遠いことではないかもしれない。

ここには、マニアが追い求めるような種類は、あまり居ないが、今回報告したように、隣接する地域とは少し異なった環境がある。この環境が、いつまでも保たれることを願っているが、今の間に少しでも調査しておくことも必要と考えられる。